

## 《 平成20年9月議会質問および回答要旨 》

### 1. 芸術文化センターの開館以来の効果及び今後の活用策について

《回答：知事》

グラントワは、平成17年10月の開館以来120万人を超える入館者があり、国内外の優れた芸術文化の鑑賞や地域文化活動の発表の場として活用され、新しい担い手の育成も積極的に行われているなど、石見地域の芸術文化や観光などの県西部の拠点として重要な役割を果たしており、今後も地元と一体となって多様な利活用に取り組んでいきたいと思っている。

《回答：環境生活部長》

今後さらに多くの方々に活用戴くためには、魅力ある美術展の開催や一流アーティストによる公演のほか、地元益田市と連携し、室町文化をテーマにした地域行事など、企画の充実を図っていく必要があると考えている。

また、全国的にも知名度の高い石見銀山、アクアスなどの観光施設との連携や、旅行会社への商品作成要請などの営業面を強化すること、またいわみ美術回廊や山陽方面を初め県外への広報を積極的に行うこと、これらを総合的に実施することにより、グラントワの一層の活性化につなげていきたいと考えている。

### 2. 来年の食育全国大会をどのような大会したいと考えているのか

《回答：知事》

来年の6月13・14日、くにびきメッセにおいて食育全国推進大会が開催される予定であるが、島根の特徴を全国にアピールするとともに、子育て世代でありながら、必ずしも健全な食生活への関心が高くない、20歳から30代の方々を中心に、幅広い年齢層の方々に御参加いただき、食育の輪がさらに広がるような契機としたいと考えている。

### 3. 「しまねCO2ダイエット作戦」事業について

《回答：環境生活部長》

しまねCO2ダイエット作戦の協賛店は、9月19日現在559店になっており、金融機関、スーパーマーケット、電気店、またコンビニエンスストア、宿泊施設等、幅広く協賛を得ている。その提供するサービスはレジ袋を断った場合にポイントを進呈する場合は最も多いが、その他協賛店の工夫により多彩なサービス内容となっている。

また、今後県民に一人一人に地球温暖化防止に向けた行動を呼びかけ、意識改革を図る必要があるため、引き続き協賛店の拡大を図り、積極的な広報活動を行って行きたいと考えている。

### 4. 職員のうつ病などの「心の病」の状況及びその対策について

《回答：総務部長》

精神及び行動の障害、いわゆる心の病により連続して30日を越える休職扱いと

なった教職員、警察職員を除く本県職員は、平成16年度22人、平成17年度34人、平成18年度36人となっており、全国の状況と同様に近年増加傾向にあり、年代別では、平成18年度の場合、36人中30代が13人、約36%となっている。

この心の病については、早期の対応が極めて重要である。このため県としては、職員自身がメンタルヘルスについて正しい知識を持ち、自分で早目に気づき対処する、いわゆるセルフケア、また管理監督者が平素から職員とのコミュニケーションを図り、職員の変化に気づき対応すること、いわゆるラインケアが重要と考え、職員への研修、情報提供に努めている。また保健師による職員相談、専門医や臨床心理士によるストレスカウンセリングを実施し、相談体制の充実に努めるなど、メンタルヘルス対策に着実に取り組んでいく。

また、心の病による休職者の円滑な職場復帰のため、段階的な職場復帰訓練を行い、復帰後においても再発防止のためのフォローアップを行うなど支援を行っている。

## 5. 中山間地域の交通対策としての構造改革特区について

《回答：地域振興部長》

島根県は構造改革特区として、公共交通機関がなく、住民の利便性が悪い中山間地域で自治会などが有償移送サービスなどを担えるよう政府に提案したが、現状では残念ながら極めて厳しい状況である。

しかし、高齢者の交通手段も確保は重要な政策課題であり、特区が難しいとすれば更なる方策を考える必要があるため、自治体が市町村と連携して会員制として道路運送法の適用外の事業として輸送活動を行っている事例等を参考としながら、新たな仕組みづくりについて検討したいと考えている。